

日本は水資源に恵まれた国

■日本は世界6位の海の広さを持つ海洋大国

日本は6852の島で構成されている極東の島国。北は択捉島、西端は台湾近くの与那国島、東端は南鳥島、南端はフィリピン海の沖ノ鳥島と南北3000キロの広範囲に位置している。

大陸にある国家のように隣国と陸でつながっていない。四方を海で囲まれている海洋大国。海岸線の長さは世界一。海そのものが防波堤になって外敵の侵入を防いできた。

南北に長く存在する島国のため、領海と排他的経済水域（EEZ）を合わせると国土面積の約12倍の約447万平方kmで世界6位の広さを持つ。（1位 米国、2位 オーストラリア、3位 インドネシア、4位 ニュージーランド、5位 カナダ、6位 日本）

豊富な海底資源の開発が期待される。
国土面積は約38万平方kmで世界61番目の広さ。

■日本は水道水の飲める国 水道水の飲める国は世界13カ国

水は限りある資源。日本にいて、飲めるのが当たり前になっている水道水も、世界的にみるとそうではありません。アジアで水道水の飲める国は日本だけです。日本では北から南までどこへ行っても水道水は飲めます。

帝国ホテル客室の水道蛇口には
「この水は飲めます」と書いてある。
This water is potable.

観光旅行で日本人が多く訪れるアメリカ、フランス、イギリス、中国、韓国では水道水は飲めません

国連加盟国は2012年10月現在で193ヶ国。国土交通省によると、そのうち水道水の飲める国は13カ国（6.7%）のみだそうです。世界的に見ると水道水は飲めないというのが一般的なのです。

水道水の呑める国はまず日本。アジアでは日本のみ。ヨーロッパではドイツ・オーストリア・フィンランド・アイスランド・アイルランド・スロベニア・クロアチアの7カ国アフリカでは南アフリカ・レソト・モザンビークの3ヶ国。中近東のアラブ首長国連邦、オセアニアのニュージーランドも飲めます。

■狭い土地で世界7位の農業生産高

日本の国土面積は37万平方kmで世界の61番目の広さです。しかも国土の68%は森林ですので、まさしく緑の島国です。森林以外の残りの平地は住宅地、工業地、商業地、農地、他となっていて、農地面積は国土全体のたった12.2%の4,56万平方km、耕作休眠地を含むと、約5万平方kmで国土の13.5%しかありません。米国は日本の88倍、豪州は89倍、フランスは6倍強の大きな農地面積を持っています。

その狭い農地で日本の農業生産高は世界7位（2012年の国連統計）と大健闘をしています。広大な大地を持つロシア、豪州、農業大国のフランスよりも日本の農業生産高が高いことを日本人は認識しているのでしょうか？日本の広大な水路網が狭い土地での高効率農業を生み出しています。

農業生産高1位中国、2位インド、3位アメリカ、4位インドネシア、5位ブラジル、6位ナイジェリア、いずれも国土が広く人口大国の国々です。日本は7位で大健闘です。8位ロシア、9位トルコ、10位イランの順になります。日本は先進国の中では米国に次ぐ農業生産国なのです。

米国の農地面積は日本の88倍ですが農業生産高は日本の2.6倍です。フランスは日本の6倍の農地面積ですがその生産高は日本の67%です。豪州は日本の90倍の農地面積を持っていますが、その生産高は日本の半分です。日本は数多くの弱小農家ががんばり、狭い農地で効率的な農業を営んでいるのです。

1984年に11,7兆円あった日本の農業生産高は2011年に8,2兆円に下がっています。減った3,5兆円のうち、米が2,1兆円減、畜産が0,7兆円減、野菜果実はほぼ横ばいです。農業生産高減少の大半は米が問題なのです。減反政策、米農家の高齢化・補助金頼み・・・などが生産高減少の原因です。タマネギは世界生産の2位、ホウレンソウは3位、ミカン4位、レタスやキャベツは6位、イチゴは7位、ナスは8位を守っています（2011年実績 FAO統計）。TPP問題が騒がれ、TPPに参加すると日本の農業は壊滅的な打撃をこうむる！TPP反対！・・・感情論の単純な新聞記事があまりに多すぎるような気がします。日本の農家は狭い農地で、他国にない工夫を重ね、大変な収穫を挙げている事実を認識しましょう。

■日本は川が約3500本と多く、長さが短く流れが急が特色。 川からひいた水路網は地球10周分の40万キロもあり日本の大地を「生きた国土」にしています。

日本列島の背骨に3000m級の山脈（火山）が走る。雨水、山の雪解け水は川となり太平洋側か日本海側に流れ落ちる。全国に約3500本という川の多さと人体の毛細血管のように全土にはりめぐらされた水路網で、その総延長切は40万キロで地球10周分に相当します。数百年かけての水争いの結果、水の秩序が形成された。先祖から受け継いだ水路網は鉄道網や道路網と並んで日本の基本的な社会インフラとなっている。

日本の川は大陸を流れる川と違い一気に流れ下る川が多い。その行程は短く（150キロ～400キロ）、山からの水は農業用水、飲料水として人間の生活を支えてきた。工業排水なども規制され、他国と比較しても水の管理は進んでいる。

日本で一番長い川は信濃川（上流は千曲川。延長375キロ）で長野県・新潟県を流れる。日本海に流れるのが信濃川で、関東側に流れてくるのが荒川。

東京と神奈川県の境い目を流れる多摩川の水源は笠取山1953mで、川の延長は138km。東京湾に注ぎ込むのが多摩川で、水源から相模湾にそそぎ込むのが富士川。

日本の川の行程が短いのに比べて世界の川はどうだろう。世界で一番長い川はアマゾン川で7025キロもある。二番目に長い川はナイル川で6671キロ。三番目は中国の長江（揚子江）アジア最長で6300キロ、水源はチベット高原。成都、武漢、重慶、南京、上海を繋いでいる大河だ。

アジア、アフリカの国々では水源から河口まで数カ国をぬけて流れる為、各国の利害がぶつかり水の管理が難しい。

諸外国では飲料水はミネラルウォーターを買うのが一般的。

21世紀の最大のビジネスは水ビジネスと言われる。GEは水を最重要分野に指定している（海水の淡水化、水道水の確保と供給システム、工業用水管理・・・）

日本全国に見られる豊かな水は農業水、飲料水の恵みだけではなく、世界に誇る日本酒、焼酎、ビールなどを生み出している。